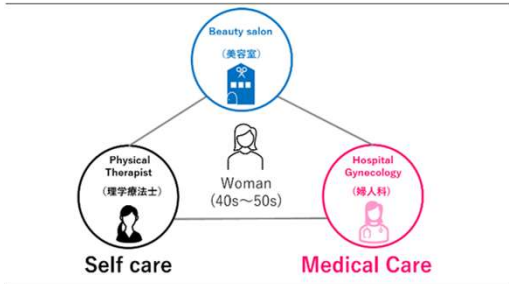


## 美容と医療を繋いだ地域の更年期セルフケア

奈良県田原本町 × 日本美容創生株式会社

### 取組概要

各自治体、各理学療法士会、そして地域的美容室と婦人科を繋ぎ、これから更年期を迎える女性の30代後半から50代後半の女性に対する更年期エコシステムを構築。地域の活性化における女性活躍支援として更年期症状によって「仕事を辞めた」「雇用形態が変わった」など働く女性の更年期ロスの抑制を目指す。



医療と美容を繋ぐ更年期エコシステム



対馬ルリ子医師監修の更年期セルフケア

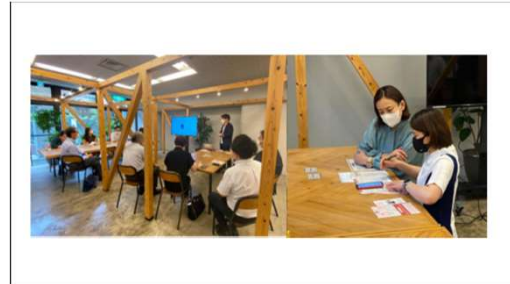
### 基本情報

代表地方公共団体	奈良県田原本町
代表民間団体	日本美容創生株式会社
他の連携団体等	公益社団法人奈良県理学療法士会、一般社団法人グラミン日本、一般社団法人日本女性財団
カテゴリ	健康増進／雇用維持・創出／男女共同参画
事業費	2,230万円
めざすSDGsゴール	
事業化までの期間	2020年4月に起業し2022年7月に事業化

### 取組内容



2022年3月三者連携協定の締結



佐賀県アクセラ採択、現在実証実験準備中

この取組で解決した課題	女性の社会進出が増加する一方で更年期症状によって「仕事を辞めた」「雇用形態が変わった」など働く女性の40代～50代で女性で75.3万人が更年期ロスを経験しています。更年期、またはこれから更年期を迎える女性にとって婦人科がハードルが高く、また適正な相談相手もなく更年期に関わる情報や知識も備わっていません。そこで女性が通いやすい美容室に理学療法士が訪問し更年期のセルフケアを行います。更年期症状が進んでいる女性には地域の婦人科を紹介し早期に対応を行い更年期で苦しむ女性の健康サポートを行います。
解決に向けた手法	弊社の事業ポイントは女性の理学療法士の参画にあります。ただ地域の理学療法士会との繋がりやまた公益社団法人であるため民間企業との連携は難しい状況です。そこで自治体に入って頂くことで公益性を上げ三者の連携協定を形成します。つぎに休眠または関心のある女性理学療法士へ説明会と研修を行います。地域の婦人科は対馬ルリ子医師よりご紹介または自治体経由で参画を呼びかけ、美容室には地域的美容デザイナーの協力を得ることで参画を促します。

## 取組詳細

事業推進上の各団体の役割分担	自治体：各ステークスホルダーの取りまとめ役 理学療法士会：休眠、または関心のある女性理学療法士さんへの呼びかけ 対馬ルリ子医師：地域の婦人科紹介 美容ディーラー：地域的美容師への呼びかけ 美容室：女性美容師または来店女性顧客への告知案内
地域関係者との連携方法	地域関係者：東京都スタートアップ事業NEXs Tokyoのスタートアップ会員を活かし自治体を繋げて頂いた点 何のため：地方創生をテーマに女性活躍社会の推進を目的に どのように：弊社の事業がどの地域でも実現可能性が高いエコシステムである事を伝えました
資金調達方法	第三者割当増資：美容業界のエンジェル投資家 投資型クラウドファンディング：Campfire Angels 補助金：ものづくり補助金
資金調達方法の補足	資金調達において苦労した点はベンチャーキャピタルさんに女性活躍の事業に関心をもっといただけていない点です。現在は既に自治体との連携や実績を先にお伝えしています。また理学療法士＝リハビリのイメージを払拭するため理学療法士のポテンシャルについて説明資料を加え理解しやすく表現を工夫しました。
事業推進上の課題・工夫	美容と医療を繋げる発想は縦割り行政組織では実現しえない発送でした。ただ女性の94%が美容室を利用しそこでは髪を切るだけでなく様々は情報交換が行われています。これまで美容業界への参入を試みる企業をみてきましたが美容師さんに何かを売りつける事業モデルが多く、美容室で働く美容師さんまた美容室に来店される女性顧客にとっての課題解決が欠如していました。そこで弊社は働く女性美容師さんの“美と健康”をテーマに美容室と婦人科を繋げるシステムを考案しました。また美容室と婦人科を繋げるリエゾン(橋渡し)として国で19万人、毎年1万人が増えている理学療法士さんに着眼しました。人体・健康に精通している国家資格である理学療法士は医療の各科で運動療法に関わり近年では女性の健康問題にも取り組んでいます。またウイメンズヘルスの功績高い対馬ルリ子医師監修のもと女性理学療法士が提供できる更年期に特化したメニューを開発し、婦人科で使用するカウンセリングシートをアプリに実装した点も弊社の工夫です。

## 担当者のコメント

美容師である母の影響で美容業界を選びました。美容室は女性の社交場として地域包括ケアの役割を担ってきましたが90年代後半のカリスマ美容師ブームによって「ヘアデザイン」に固執し大切な地域との繋がりを忘れていました。そこで20年に及ぶ美容業界のキャリアを生かし、かつて女性の社交場であった美容室を、気軽に健康相談できる場所へアップグレードを行い女性活躍社会の“まちの保健室”を目指すべく起業し、更年期をテーマに美容室、理学療法士、婦人科を繋げるエコシステムを作りました。

2022年7月に事業化できたばかりのためこれからマーケティング・営業活動を展開し売上・収益を作っていく段階ではありますが、既に女性美容師のかたから多大なる感謝や嬉しいメッセージを頂いています。更年期は45歳～55歳が一般的に定義されていますが美容業界では30代後半の美容師さんで更年期症状が進んでいるケースも確認できています。女性の理学療法士さんに色々な健康相談ができる事が何より心の安心をお届けできる弊社のサービスは必ず女性にとってかけがえないサポートになると手応えを感じています。



美容室で撮ったチームメンバーの写真

## 優良事例応募項目

取組のポイント（3つの視点）	<p>①地方創生SDGsの視点 3.すべての人に健康と福祉を、7.ジェンダー平等の実現を目指します。女性の社会進出は年々増加しており、政府や各産業においても女性の活躍を推進する機運が高まりをみせる一方、女性が働き続けるための配慮には不十分な点も残っています。人科系疾患を抱える働く女性の年間の医療費支出と生産性損失を合計すると6.37兆円にのぼります。日本の将来を考えるにあたっては、女性の健康への支援が必要であると考えています。3,000万人の働く女性の4分の1が更年期を迎え、現在その1割が更年期症状によって「仕事を辞めた」「雇用形態が変わった」など働いていない状態を経験しています。弊社は健康だけでなく女性のWell-beingな暮らしをサポートして参ります。</p> <p>②ステークホルダーとの連携 「11.住み続けられるまちづくりを」重視し、地域的美容室、理学療法士、婦人科で作る事ができる更年期エコシステムを目指しています。そのために時間を要しますが自治体、地域の理学療法士会、そして婦人科と美容室の4つの点を繋げて参ります。</p> <p>③モデル性・波及性 まずは美容室の福利厚生として導入頂き女性美容師の皆さんに理解と共感を構築していきます。次に美容室に来られる女性を対象にアプリを通じて更年期のビックデータを目指し将来は婦人科と連携したメノテック市場でビジネスを展開して参る所存です。</p>
----------------	---